



ご挨拶

東筑紫短期大学同窓会筑紫会 会長

永 濱 初 子



やわらかい春の日ざしが一日と暖かさを増しております。

東筑紫短期大学筑紫会会員の皆様には、地球規模で蔓延するコロナ禍での日常を緊張と不安な思いでお過ごしのこと存じます。

昨年、令和二年七月豪雨(熊本県)で、球磨川流域が氾濫決壊し、甚大な被害を受けた皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

さて、筑紫会通信「つくし」も今回で第五十号となり、思い出深い大きな節目の事業として取り組みました。顧みずと、半世紀の間、よく続けられたものだと思懐深いものがあります。これも先輩諸姉の皆様のご協力の賜物と感謝申しております。

この度、本会に新会員二百二十七名が入会されることとなり、大変嬉しく存じておりますが、本年三月三十一日で、本短期大学の創立学科である被服学科、現、美容ファッションビジネス学科が残念乍ら八十五年の歴史に幕を閉じることとなりました。

しかし同窓会活動を縁に出会いの場として、会員相互の連携を深め、心豊かな日々を送り続けたいと考えております。

令和二年度の総会・懇親会を六月七日(日)に予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため止むなく書面総会とさせていただきます。従って令和二年度の当番幹事の方々は、一丸となって筑紫会に協力していただきました。活動としては、令和二年九月に熊本県下・大分県日田市・天ヶ瀬市・福岡県大牟田市等々の会員約五百名に、マスクと折り鶴を郵送にて贈りました。受け取られた方々から、学生時代の寮生活のこと、短大で生きる力を学んだこと、エールを送ってくださった諸先生のこと等々、感謝の言葉や手紙が沢山寄せられました。また、当番幹事の方々は、つくし通信第五十号の編集作業にも関わっていただいております。

令和三年度も総会・懇親会は中止の予定であり、コロナ禍の中で、同窓会活動は制約されておりますが、会員の皆様方と共に、あらゆる英知を出し合い、コロナ禍を乗り越えなければなりません。人との繋がりを強くすることにより、私たちの命を守りたいと願っています。このような時こそ他人を思いやり、寄り添う気持ちを忘れないようにしたいものです。

今後とも、筑紫会の発展のためご指導賜りますようお願い申し上げます。また母校の繁栄と会員の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

学祖 宇城信五郎先生・力子先生



仲むつまじく



新聞の取材をうけて



執務室にて談笑

校歌 (昭和三十一年)

作詞 玉井正雄
作曲 角正年

一、雲はわき陽は昇る 遠き山脈
風薫る玄海に 夢は果てなし
若き日のわがいのち 花咲く園に
集いきて求めなん 久遠の理想
仰げよ東筑紫 おお東筑紫

二、風にたえ雪にたえ 幾春秋磨く
けがれなき筑紫魂 まことの精神
智を啓き技を練り よき師よき友
幸多き学びやに 灯消えず
讃えよ東筑紫 おお東筑紫

三、たまゆらに移りゆく 世界の潮
わが道は遙かなり 使命は重し
いざともに美わしき 文化の錦
織りなしてかかげなん 平和の道標
輝け東筑紫 おお東筑紫

旧校歌 (昭和十八年)

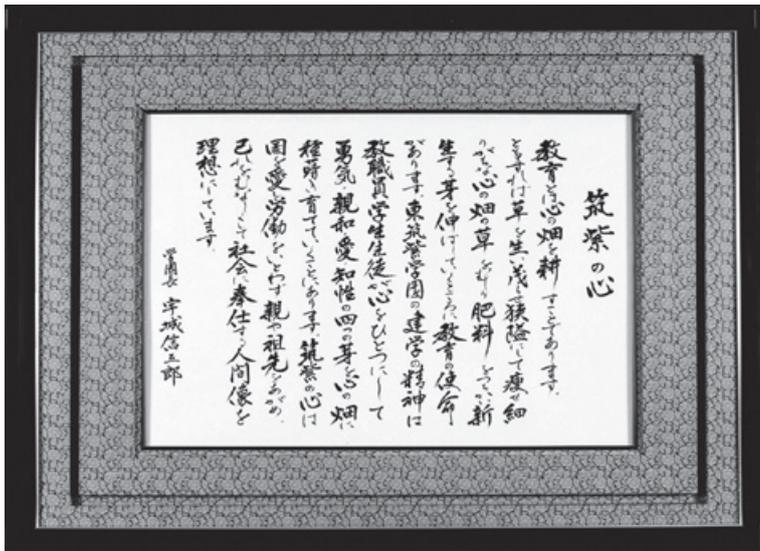
作詞 西村光月
作曲 斎藤佳三

一、筑紫の国は 美祖神
穢ぎたまいし 聖地なり
罪や汚れも 白たえの
御衣の光 草けれ

二、いすみ波ふ むらさきの
川の流れに みすずきの
清き心に 縫いてゆく
平和とさかえの 新衣

三、弥栄 行く 大八洲
御幸をつづる 乙女子の
まことほぐれぬ 和衣や
ささげまつらん 大前に

四、美祖の心は 吾こころ
昔の手振りに 神ならい
乙女のはこぶ 針の音
美代立花の 音ぞさゆる



筑紫の心



藍綬褒賞をご夫妻で受けられた



三越展にて



井筒屋展

学校法人東筑紫学園 理事長

宇城 照燿

筑紫会会員の皆様にはお元気で
ご活躍のことと心からお喜び申し
あげます。

平素より本学園の教育に対して、
多大なるご支援を賜り深く感謝申
しあげます。

本学園も今年で、建学の精神「筑
紫の心」の理念を基に創設され、
八十五年の歴史を積み重ねてまい
りました。

これも平素より学園の教育に対
して多大なるご支援を賜りました
皆様のお蔭であると、深く感謝申
しあげます。

また、「つくし」通信も第五十号
の発行となり大変喜ばしい限りで
す。“継続は力なり”という言葉が
ありますが、この先も末永くこの
営みが続くことを願っております。

同窓生の皆様のそれぞれの地で
のご活躍と筑紫会の大きいなる発展
を祈念いたします。

建学の精神・四つの心と身体そして夢目標

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学 長 室 井 廣 一



四つの心を育てるといふ視点で当然に考えておかなければならないのが、この四つの心が住みなす体である。健康な体を維持していなければ四つの心も自分の目標に向かって育むことはできない。夢目標が単に観念的でなく日常生活の体の中で習慣化され根付いていなければ本物の自己実現などは難しい。人生百年時代と言われる昨今なおさらのことである。

心身一如という言葉があるように、四つの心と自分の身体は不可分である。現実的には切り離して考えることはできない。四つの心を支えているのはこの肉体である。創設者の師であった出口王仁三郎も、その「先師」であった本田親徳の「故に其の霊を守るものは其の体、其の体を守るものは其の霊。他神有りて之れを守るに非ざる也。」（鈴

木重道編『本田親徳全集』36頁 出口王仁三郎全集第一巻431頁も参照）を引用し共通認識している。ここで霊と言っているのは「四つの心（一霊四魂）」と考えていいが、四つの心の根底奥底にある絶対者に通じているものが含まれている。「体」は「其の霊を守るもの」と言っているので単なる物質的なものだけではない。

この四つの心が積極的に肉体形成に関わっているということも否定できない。持って生まれた体ではあるが自分の思いで創り上げてきた体であることも真実である。武道家などを志した人はそういう思いが強いと思う。大抵の人は自分の持つて生まれた身体状況に満足している人はいないし、まして自分の思うように体を動かすことができるという人もなかなかないと思う。いろいろと努力鍛錬し自分の思う方向に創り上げてきた面のあることは否定できないのである。が心のままにといいわけにもいかないというところである。それどころか体だってそれぞれの

部分から複雑に形成されておりその体なりの連動的均衡統一を図ることは、四つの心を均衡すると同じくとても大変なのであり、身体方面からの四つの心への影響もかなり大きいものがある。この双方の関係についてはなかなか難しいところがあり簡単に語れることではない。

私は72歳になるがどちらかというと生まれつき怠惰でさほど運動神経にも恵まれておらず体に自信があるタイプではない。身体論を語れるような修行をしってきたわけでもない。この年まで体を使ってお掃除を日々してきた位である。それでもここまでは身体という視点からも建学の精神を考えて見たいと思う。

思えば、この年まで、自分の四つの心と目標、欲求のために、その心の赴くままにどれだけこの身体をこき使ってきたであろうか。四つの心が発動発達発展統合を、あるいは反対に挫折縮小、後退、亀裂を繰り返す中で、どれ位この体に負担を強いてきたことか、どんな状態にな

ろうともこの体は自己の夢目標に向かった四つの心の展開を支えてきているのである。我々の四つの心は言うまでもなくこの身体の中に住み込んでいる。この四つの心の赴くままに身体は使われているのである。まるでタダのように。確かに、何十年も使っても手足等は擦り切れて使用不能にはならないからタダのようにも思えるのである。よほど身体の病気や故障の時以外少なくともそういう一面があることは事実であろう。更にこの体は直接的には両親から与えられたものであるから、自分で苦労して作ったわけでもないから本当に在って当たり前という風に考えがちである。

しかし考えてみると体の方も心の在り方に大きく関わっている。自分の身体状況が自分の行動を大きく規制してきていることも事実である。心の使い放題に対しては頭痛や腰痛や鬱的気分等を引き起こし、それなりの抵抗的応を示してきているのである。その反応をよく考

えながら自分の心中心の生き方だけではなくて体の方からも自分を考えて見なければならぬ。四つの心の発動発達統合も大切だが、体の方も頭から足腰、腕まで統一的に連動的にリズムカールに動くかどうかということが大切なのである。心身一如とか言っても、心は心、体は体それぞれが発展統一ということも要求され、そのうえで四つの心がつかんだ目標を体の中に根付かせ両者が日常生活の中で習慣化していかないと自己実現などは難しいものである。心と体の両方からよくよく自分の夢目標を追いかけていかなければ「現実形成力」が発現しないから本物の生活者の実学は修得困難になる。 「全き生命力」の発動も難しくなる。

少なくとも四つの心の一つ一つが発動する時に、それにふさわしい自分なりの身体状態が対応発動できるかどうか、「荒魂・勇氣」、「和魂・親和」、「幸魂・愛」、「奇魂・智」発動の時のそれぞれ体の姿勢位は自分なりの構えを考えて毎日訓練し身体の動き・状態を点検し身体の連動リズムを確認し体の手入れを怠りなくしなければならぬ。四つの心がどんなに緊張を余儀なくされているときも体を維持する

栄養摂取や適度の睡眠の確保を妨げてはなるまい。まして余計なストレスなどはあくまでも四つの心とお掃除でスッキリさせるの領域に入れないようにする。そのためにこそ日々身体のお掃除も年齢と共に大切になってくる。肉体系年齢が高齢化するに従い環境や道具そして心のお掃除の他に体のお掃除が重要になってくる。心や環境のお掃除だけではだめなのである。毎日のお風呂一つとっても、ただお風呂やシャワーで自己の体を洗い流すだけではなく、例えば足腰には、「こんな重い体全部を背負ってくれて毎日毎日ありがとう」という感謝の念を表しながら揉みほぐしきれいにしていくことが大切なのである。毎日四つの心を発動しながら手入れしてゆかねばならない。そういう体のお掃除の積み重ねと、心と体の通い合いが健康を創り出し自己の夢目標を支えてくれるのである。文字通り健康とは、健やかで康らかな心と体の状態を保ちながら四つの心と体が円滑に目標に向かって作動している心身状態である。

これまで四つの心を大きくする可能性には夢目標の獲得が大切だということを繰り返し述べてきたが、その夢目標を実現するための行動を担保するのがこの体である。四つの心、夢目標、身体、この三者を一体的に理解できた人はとても強くなれると思う。地についているからだ。ここで、ひとつこの体の観点から、夢目標なんていらぬという反論を記しておこう。この夢目標には一見入らぬような肉体系中心意識からである。「夢目標等はない。自分はそんなことよりも、両親にもらったこの体をとにかく生きられるところまで生きぬいていくところに生活者としての重点を置いていく。誰よりも生き抜いてみたい。できれば未来永劫に生き続けたいものだ。そのためには衣食住が必要だし更にそれらを満たすためには務めを持って働かねばならない。だから今働いているのだ」という人だ。実のところこういう人が夢目標を持っていないとは言えない。身体維持の方向を強調しながらリアルな夢認識を持っていてと言え。身体維持活動もそれ自体ある境遇では夢目標そのものなのである。それが在って夢目標実現に向かう基本的な実践が大きく担保されるのである。「四つの心・体・夢目標」意識が生活者の日常に習慣的に根付いていかないと本物の自己実現は難しいのである。三者は複雑に結びついている。この三者の発展統合と本学の各

学部学科の教育内容を合わせて具体的な創設者の人格教育理念と実学教育思想が実存してくる。人の夢目標を設定する四つの心の発展境遇と身体の状態は人それぞれであるから、両者の統一の中に夢目標が形成されるということになれば、それら三者の織りなす夢目標設定そして実現過程は極めて複雑多様である。それらの前後関係も人によって多様性を持つことになる。人の個性はそういう複雑作用の中から生まれてくる。夢は様々な人それぞれの境遇の中から芽生え様々な位相を持つのである。夢実現過程には段階性があるし、夢は一つだけではなく大抵の人は複数持っているし、日常の人は複雑な欲求次元から様々な価値志向として自分の生涯のテーマに至るまで重層的に併存並立している。更にそれは様々な境遇を持つその人固有の価値体系の中に息づいている。一つの夢が仮に充足したとしても限りなく膨らみ続けていくし反対に実現できず自己を縮小させていく場合もあるが大抵の人は多元的な価値志向を有しているから、心と体を組み直し通い合わせ新たな価値を夢目標とし、たくましく挑戦を続けていく。「あれがだめなら今度はこつちから」という時もあるし、「もう

夢など見たくもない」と言って「夢を見ない夢」を見る時もある。夢目標を支えているのは何と云っても四つの心と体である。多少の打撃を食らってもこれさえしっかりしていればこの双方を結ぶ基盤がしっかりしていれば、夢はその中にはらまれており死滅することはない。「まっさらまっすら」にお掃除されている心身なら尚更である。様々な危機的状況にも対処していきけるし敗者復活戦だって可能である。夢破れても「統一把握された心身基盤」が無傷で残っているからである。

百年時代を生きる夢目標としてそれに向かう四つの心と身体これらの統一把握して本当のその人固有の実践行動が始まる。創設者は「行動は全き」と言う。この意味がよくは分からなかったが、ここでの四つの心と体の通い合うような統一を目指しながら、己の夢目標に向かう心身の持ち方の大切さを意味していたのではないかと思う。つまり四つの心と体の「全き」をほらみ「全き」に向かう日々の実践行動がとても大切という意味ではなかったのか。ここで「全き」に向かうとは単なる夢目標の実現ということだけではなく、そういう自己の務めの達成を通して神から与えられた使命を果た

しながら到達する聖なる境地も表している。最初から「全き」行動が自覚されているというわけではない。「全き」をほらむ行動が重要ということである。その「全き」行動がやがて四つの心とそれにふさわしい体を自分なりに創り上げ苦惱しつつ極限の創意工夫を重ねながら夢目標を実現し「全き」世界に向かうということである。そういう「全き生命力」の表れとしての行動の積み重ねこそ先生の「惟神の道」だったのである。

（お掃除をしながら私の中に芽生えた「全き生命力」という言葉はそういう自分の生きる道を探し四つの生命力に出会いそれを支える身体を把握する出発の概念であり、そこに夢目標を設定実現していく目標の概念でもありその夢目標の根本に向かつて苦悩しながら様々な創意工夫を凝らし到達しようという到達性を有した概念でもある。矛盾を含んだ多義的言葉である。自分でも手に負えないのだが、もとはと言え、創設者のこの言葉に端を発している。）

令和3年正月12日

（本稿は令和2年度卒業記念誌「筑紫VOL.66」、「勇親愛知第6号」に掲載されたものである。）

恩師より

70歳を越えて思うこと

元保育学科教授 宮崎 正人



御卒業おめでとうございます。予期せぬ新型コロナウイルスの流行で、短大生活はガラリと変わってしまったまま卒業式を迎えられたことと思います。

教壇に立つ教員の品定めをしたり、学食で友だちと食事しながらダベリングを楽しんだり、部活に汗を流して自分の可能性を追求したり、実習で貴重な体験を通して多くを学んだり、バイトで貯めたお金で卒業旅行をしたりする筈だったのでしょが…。きっと何年か後に友だちと学生時代の思い出話をする時は、必ずこのコロナ生活が話題に上ってくることでしょ。

ある日突然中国で発生した新型コロナウイルスでしたが、これまで似たようなウイルスの

世界的流行がありました。今から100年少し前、アメリカで最初に報告され瞬く間に世界各地に拡がった「スペイン風邪」がそうでした。3年間に3波に及ぶ流行で、当時の地球人口の約半分の人が感染し、死者は2,000万人とも4,000万人とも言われています。日本でも約30万人の人が亡くなっています。

日本各地の神社を中心に行われている伝統行事の多くは、大規模な自然災害や疫病の流行で多くの人が亡くなったことに由来しています。死者への弔いと生きながらえた安堵と、二度と起こらぬよう願う祈願の念から生まれました。奈良時代、室町時代、江戸時代にたびたび自然災害や疫病による多くの死者が出た記録が残っています。

私たちの祖先は、そういう予期せぬ災害や飢餓、疫病をくぐり抜けて生き抜いてきました。私たちの命は、そのような力強く生き抜いてきた人々の元に今日

の生を授かっていると云えます。だからこそ大切にしたい命です。顧りみれば、私の人生は病気との闘いでした。闘いというより病氣と同居し、うまく折り合いをつけてきたと言った方がいいかも知れません。

26歳の時肺結核で1年半の入院と1年の自宅療養。36歳の時結核性胸膜炎とB型ウイルス性肝炎の併発で7ヶ月入院。その後慢性肝炎の悪化で入院をくり返し、46歳の時肝臓の繊維化を調べる肝生検をうけたところ、既に初期の肝硬変になっていることが判りました。この時、50代で肝臓癌になり、60歳の坂は越せないと言われたのを思い出します。

案の上53歳で最初の癌が見つかりました。以来74歳の今日まで5回の肝臓癌手術を受けてきました。何れも東大病院でラジオ波焼灼療法という手術です。1回目の手術をした21年前は、肝臓癌の告知は半分死を宣告されたのと同じくらい治癒率の低い癌でした。不思議な御縁に導かれるように、アメリカで開発されたラジオ波療法を学び、東大病院で実践を始めて間もない医師（現在順天堂大学医学部教授）による手術を受けることができました。以来4ヶ月に一度

年3回の定期検診を受けて来ています。

私の左腕には3つのBCG予防接種痕が残っています。小学校1年〜3年の間、3回のツベルクリン反応を診る注射を受けました。94歳の母の血液からは、B型肝炎ウイルスは検出されませんでした。これにより出産時の母子感染は否認されました。当時の集団予防接種の注射針は、今のように一回一回使い捨てではなく、一度に10数人使うことが当たり前の時代でした。私の肝臓癌は、この時の予防注射によって感染し、大人になって免疫力が低下した時に急に増殖し、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌と進行したものです。

私は、時代の置き土産のようなB型肝炎ウイルスの血液感染という不運と、まだ当時医療保険の適用外だったラジオ波手術という先端医療を受けられた幸運とを経験してきました。

娘の結婚式に出ることが叶い、孫を抱く喜びまで味わうことができ、生物としての次世代を引き継ぎ見届けることができた喜びを噛みしめています。

東筑紫短大を退職して11年、北九州を離れ田川市の実家に戻って早7年が過ぎました。今

年の暮れには後期高齢者の仲間入りをします。いよいよ終活期の準備をしなくてはならない年齢になってきました。小学校の頃仲よしだった女の子が早々と他界し、大学を出て双葉社に入社、マンガ部の副編集長を最後に退職した同郷のM君も4年前に旅立ってしまいました。「クレヨンしんちゃん」をマンガアクションに連載し、臼井儀人を世に送り出した功績の持ち主です。同級生が一人欠け二人欠けしていくのは淋しいものです。

退職後に始めた「男の料理教室」とヤマハの「オカリナ教室」は今も続けています。前者は月1回、後者は月2回小倉まで出かけています。5年間続いた有料老人ホームへのオカリナ慰問演奏会は、コロナで中止になってしまいました。毎日の朝食づくりはもう10年目になりました。50代で始めたラジオ体操は今も続けています。田川に戻ってから、筋力維持のため妻と一緒に早朝散歩を始めました。（冬場の3ヶ月はお休みしています）母が残してくれた15aの畑に、年間30種類近い野菜をつくり、余った野菜は、娘家族、近所友人に配っています。化学肥料は一切使わず完全無農薬有機肥

料づくりです。妻との共通の楽しみは旅行と釣りです。冬は山口県の豊田湖へワカサギ釣りに、年に2〜3回大分県の大入島へ泊まりがけで釣りに出かけます。最近では妻の方が腕を上げ、いつも私は負けてばかりです。

若者にとって現代社会は生きづらい社会になったのかも知れません。いつの間にか経済のグローバル化が進んで、日本型の終身雇用、年功序列賃金体系は崩壊してしまいました。企業の存続に都合のよい非正規雇用が広がりを見せ、一段と所得格差が増大しています。富の格差は富める国と貧しい国の拡大という地球規模で広がっているようです。更に追いつきをかけるかのように、プラスチック製品の海洋汚染と二酸化炭素による地球の温暖化が深刻さを増しています。このような現代社会に背の中を押されて社会で生きてゆかねばならない若者には、将来の希望が持てなくなるのは当然かも知れませんが。一昨年の国連環境会議で演説したスウェーデンの高校生、グレタ・トゥーンベリさんの怒りのスピーチは、私の心を揺さぶり、心が痛みました。"あなたたち大人が話しているのは、お金のことといつまで経

済発展が続くかと言う話ばかり。恥ずかしくありませんか？気候変動による地球温暖化対策を理解していると言いながら、言葉だけで何ら行動に移さない大人に失望した"という要旨でした。

アメリカのトランプ前大統領は、地球の温暖化はウソだと平

気で発言し、地球温暖化対策の枠組条約パリ協定から一早く離脱しました。アメリカファーストを推進してきたトランプ政策は、アメリカ国民から再選の支持が得られず、代わってバイデン新大統領の政治がスタートしました。直ぐ様パリ協定に復帰の署名を行い、民主主義の偉大さ、維持することの大切さ、困難さを就任演説で国民に訴え、格調高い期待が持てる内容でした。国民の人権を蔑ろにし、報道の自由、表現の自由に制限を加え、権力の温存化を図ろうとする中国やロシアの指導者に、日本やヨーロッパの国々と連係してリーダーシップを発揮してくれることをバイデン大統領に期待しています。フランス革命で掲げられた「自由・平等・博愛」の理念は、ヨーロッパ諸国でく

たく色褪せていません。晴れた日は畑で土を耕しながら、警察に拘束された香港の周庭さんの行方を案じ、唯一の被爆国である日本に率先して核拡散防止条約に参加、批准を推し進める政党、立候補者に投票しよう決めました。

残りの時間がどれだけあるのでしょうか？最近もつと日本人として残りの人生を噛みしめて旅立ちたいと思うようになりました。日本の自然の移ろい、茶道や華道、水墨画の日本文化をもっと知りたいという欲求です。知らなかった草木の名前や庭に来る鳥たちの名前を図鑑で調べることが多くなりました。

そして、まだ歩ける間に2〜3回に分けてでも、四国の88ヶ所霊場巡りをしたいと秘かに思っています。

卒業生の皆さん、これから先どんな風、どんな波がやってくるか分かりません。風の強さや波の高さはそれぞれ違うと思いますが、決して平坦な道ではないことを覚悟して下さい。どうかその道から逃れることなく、挑戦し続けることを期待します。生きていくことは、辛くて、苦しくて、楽しくて、おもしろいですよ!!

新型コロナウイルスが発症して一年、未だに終息の域に達せず、仕事や社会環境も、これまでに体験したことのない状況が続いている。

卒業して五十七年、教員になり、定年までお仕事をさせていただいた。主に小学校勤務であったが、その間、教育センターにも三年間勤務をさせていただき、学校では得られない体験ができ、ありがたかった。

卒業生だより

大学で学んだことを生かして

被服科 第13期生 原

英子 (家 吉)



は喜んで下さる。
これも、東筑紫短大で培った
魂の賜物であると思う。

繡に魅せられて

被服科第15期生 植前 廣子



東筑紫短期大学同窓会通信
「つくし」五十号（半世紀）発
行お目出当御座います。

東筑紫短期大学に入学して、
初めて日本刺繡のご指導を受け
ました。一針一針刺し進み、大
変根気を要する作業でしたが、
作品の完成を楽しみに一生懸命
に続けました。宇城カ子（世怡）
先生の「双虎」の作品に接し、
感銘を受けました。卒業後も子
育てや主人の実家の手伝い等の



在学中に作った日本刺しゅう
は、今も我が家の玄関を飾って
いる。

後で、時間が有れば日本刺繡や
文化刺繡を続けました。

クラス会の折、昭和十二年「筑
紫服装学院」発足から四十周年
記念（昭和五十二年二月）の宇城
カ子名誉教授著書「日本刺繡」
東筑紫短期大学作品集又、東筑
紫学園創立五十周年（昭和六十
一年十一月）記念作品集「筑紫野」
を購入しました。その中にあった、
故宇城信五郎東筑紫短期大学学
長・理事長様が教訓として遺さ
れた「楽道人之善」（人の善きこ
とを言うを楽しむ）宇城カ子名
誉教授「心技美一如」の道（生
涯にかけた無限の夢）等が私の人
生の道標になっていると思います。

現在迄色々な先生方のご指導
を受け、私にとって日本刺繡は
人生の一部に成りました。

大西繁治（古知平）先生に「百
壽の刺繡の完成の折は、本にし
たらどうか、私が監修するから」
と申されていましたが、百壽が
終わりに近づいたそんな折、先

生が急逝されました。途方に
くれましたが、短期大学時代の恩
師の先生に御相談して、同窓会
「筑紫会」の永濱初子会長様を

ご紹介して頂き、色々なアドバ
イスを受け、日本刺繡の作品展
示会を行う様進められました。
そこで、門司駅前「ヨシダ眼鏡・
時計店」様のお力添えを受けて、
展示会場をお借りして作品展を
開く事が出来ました。その折は、

九州栄養福祉大学・東筑紫短期
大学学長室井廣一様、東筑紫学
園理事長宇城照燿様を始め、同
窓会会長様、恩師の先生方、同
窓会の多数の皆様方のお力添え
を頂き、身に余る展示会を行え
た事に、感謝申し上げます。

その後平成二十六年に、日本
刺繡の本「繡に魅せられて」を
出版する事が出来ました。
平成二十七年に新聞の公募で
知った、「日本手工芸美術協会
展」に「百壽の掛軸」を出品し
ました。運良く東京都美術館に
おける第四十回日本手工芸美術

に於いて名誉会長賞（鳩山邦夫
氏）を頂く事ができました。こ
れもひとえに、皆様のお陰です。
最後になりましたが新型コロ
ナウイルスの大流行で落ち着か
ない日々ですが、皆様のご健康
とご多幸をお祈りします。

「追想」

被服科服飾美術専攻 第10期生 安部 恵美子



私が東筑紫学園とご縁を頂
いたのは、昭和三十八年の東筑
紫短期大学附属幼稚園に入園し
た時です。以来、短期大学まで
長きに亘り教育を授かり、卒業
後は母校に奉職する機会を頂戴
し、人生の大半を東筑紫学園で
お世話になりました。

創設者宇城信五郎先生が入学
式で話された「今日という日を
迎えられたのは、当たり前では
なく、周りの方々の支えのお陰
です」の言葉に深く感銘を受け
ました。人に対する敬愛と感謝
の心を育てて頂き、感謝の気持

ちで一杯です。

私が服飾美術に進学した理
由は、物づくりが好きで、物を
形にしていく過程の楽しさに加
え、伝統工芸を重んじながらも
想像力と獨創性に富んだ芸術に
惹かれたからです。

宇城カ子先生自ら教壇に立た
れ「被服概論」等服飾の奥深さ
を教授して下さい、その魅力に
引き込まれたのを思い出します。
卒業作品は、伝統工芸のろう
けつ草木染めに取組みました。
今は亡き安元安子先生のご指
導の下、図案構成から蠟入れ作
業の工程を根気強く繰り返し、
一年の時をかけて卒業制作に取
組んだ日々が懐かしく思い出さ
れます。制作途中で迷いや失敗
に作業が進まないなど、先生の
導きや友人の励ましに助けられ

一つの大作を完成させる
事が出来ました。この経
験は、卒業後の社会生活
において大変役立ちまし
た。

ろうけつ染めを見る
度、当時の事が蘇り、感
謝と勇気が湧いてきま



す。

今も学友が集まる度、十代に戻り当時悪戦苦闘した出来事や楽しかった思い出話に花が咲きます。

今年度を以て被服科が、長い歴史に幕を下ろすに至った事

出逢いと、きずなと、つながりへ

保育科第3期生 大熊 ふくえ (上野)



今から63年前、昭和33年3月、卒業以来の懐かしい思い出が走馬灯のように体中を駆けめぐって、コロナ禍の自粛生活の中で久しぶりに、今の自分をふりかえり、わくわく感を味わっています。

在学当時の保育科の校舎は、木造二階建てで、二階の二つの教室は、二期生49名と私たち三期生56名で三階の小さなスペースにはオルガンが何台か並んでいて、休み時間や放課後にはバイエルやソナチネ、童謡などを練習する曲がきこえて、いかに

は、卒業生の一人として寂しい気持ちはありませんが、伝統の灯は消えることなく、私達卒業生の心に生き続けています。

東筑紫で学んだ心を大切に社会に少しでもお役に立てるよう精進して参ります。

最後になりましたが、同窓会誌に寄稿の機会を頂きまして、本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

東筑紫短期大学同窓会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り致しております。

先輩からは、知識や経験を学び、後輩からは感性を学ぶ大切さを教えられ、二年間充実した学生生活でした。

卒業後、小倉市の光澤寺中井幼稚園でお世話になり、その後地元田川で、3年間保育園を経験し、結婚、出産後、主人の仕事の関係で昭和39年6月、ちょうど東京オリンピックの年に、静岡県の富士山が見える麓の裾野市、三島市、沼津市に隣接する長泉町に移り住みました。子育て真っ最中の3年後、公立幼稚園採用の試験を受け、昭和41年4月から平成9年3月までの31年間、保育の道ひとすじに歩き、34歳の年に、新設の幼稚園の園長として迎えられ「地域に拓かれ

た幼稚園」として、地域の人々に信頼される幼稚園となることを願ってがんばった思い出は忘れられません。

故郷から遠く離れていると、田川が懐かしく、夏休みには時々帰って、時には母校を訪れるのが楽しみのひとつでした。いつ訪れても温かく迎えてくださる先輩の永濱先生は、公私とも忙しい中を私のために、発展途上の母校の案内を熱心に誇らしく語ってくださいました。

私はいつも、このようなことを思いました。それは、保育科という小さな苗木がだんだん時代の波に乗って、大きな大きな大木に育っていく姿に思いを寄せて見守って来られた先輩の永濱先生にはいつも尊敬と感謝の思いがありました。

現在、私は幼稚園を退職した仲間と一緒に折り紙で作った遊

べるおもちゃを作って町内の幼稚園や保育園を訪問して、子どもたちへプレゼントをする活動を楽しんでおります。

人生100年時代といわれている時、子どもたちの未来を思い、これからも「出逢い」に感動しその感動によって生まれる「きずな」に支えられ「つながり」できたことに感謝して過ごして生きたいと願っております。何と云っても、私の原点は、東筑紫短期大学との「出逢い」です。

最後になりましたが、東筑紫学園の更なる発展と、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



「感謝」——多くの人に助けられ——

保育学科第14期生 吉村 絹代



同窓会通信誌「つくし」50号発行おめでとうございます。

この度は、同窓会より地震・水害のお見舞いとして「マスク」を送っていただきました。誠にありがとうございました。卒業して50余年、今なお卒業生を案じ、心にかけて下さる筑紫会のお心遣いに感謝しています。

熊本は、熊本地震から5年を迎えます。5年前の4月16日未明におきた本震の揺れ、室内の物が倒れる音、建物が軋み崩れる音。本当に恐かったです。暫くは不自由な生活でしたが、沢山の方に助けていただきました。

又、昨年7月には人吉地方を豪雨が襲い、球磨川が氾濫し、多くの方が被害に遭われました。学生時代寮で共に生活した友人は、「自宅軒先まで水が来て、一階が泥水につきり困っ

てた時、友人達がかけつけ泥をかき出しきれいに片付けてくれた事は、有り難かった。」と話していました。しかし、業者不足、資材不足で家の修理も進まず、7ヵ月立った今も二階で不自由な生活をしています。

自然は心を和ませ癒してくれませんが、突然に牙を向き、予想だにできなかった災害をもたらします。いつ、どこで災害に遭うかわかりません。若い時みたい素早く行動する事は出来ませんが、防災対策をしっかりし「備えあれば憂いなし」「自分の命は自分で守る」を心掛けて生活したいと思います。

両災害時、応援して下さい。皆様を忘れる事は出来ません。感謝しています。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝と母校のさらなる発展をお祈りいたします。

感謝をこめて

保育学科第15期生 大久保 雅子 (岩根)



昨年から新型コロナウイルス感染症で生活様式は一変しました。

私たち一人ひとりが自覚し行動する事によって感染拡大を防ぎ収束することを願っております。

私は昭和45年に卒業し、保育の道を歩き始めました。保護者の就労等を支える施設であると同時に「教育」と「養護」について常に研鑽を繰り返し、「子どもの最善の利益」を最優先し、47年間無我夢中で走り続けて来

『保育士』と私

保育学科第16期生 皆田 明代



本大学を卒業以来、前へ前へと進んでいた私は、最近、立ち止まることが多くなってきました。保母になろうと決めた時、保育園に就職して現実とのズレ、民間と公立保育園との違い、生活のため、役職の立場の違いなど、

ドミントン部と青春時代を謳歌させてくれた両親にも感謝し、思い出が走馬灯のように廻ります。今年も年女。学友たちとは「東筑マーズ」と称し、卒業して50年が過ぎてもあの学生時代にすぐ戻り、昔を懐かしみ近況を語り合い、話が弾みます。先日はアフガンで偉大なる業績を残し凶弾に倒られた中村哲医師（玉井先生の甥御様）のニュースから、児童文学の教授だった袴姿の玉井先生の在りし日を語り合い、本当に人から人への繋がりを感じたものです。これからも旧友と逢っておしゃべりができる日が来るのを楽しみに待っています。

最後になりましたが、筑紫会の更なるご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

『これでいいのか？他に手立てはないのか？』と問う毎日だったように思います。その度『自分が今、出来ることは何？』と考え、チャレンジしてきました。五十年間、保母として保育士として仕事することが出来ました。しかし、理想と現実とのほごまで揺れることが多く、『保育士になつてよかった』と、思えるようになってきたのは、五十歳過ぎてからでした。

担任した子が保育士になって一緒に仕事したり、四十年以上経た今も連絡・相談などがあつたり、仕事の成果や結果が今も継続されているなど、様々です。いろいろ経験して今、『保育士になってほんとによかった』って思えるのに、こんなに時間がかかってしまいました。いっぱい失敗もし、寄り道、遠回りもしました。ただ、間違い

自分の人生を振り返って

食物栄養学科 第6期生 吉原 直



東筑紫食物栄養科を卒業して五十六年、今年で七十六歳になりました。東筑紫学園とのご縁は、戦後台湾から引きあげ苦労した母が結婚後も続けられる職業に就けるようにと食物栄養科を勧めてくれました。二年間の思い出はたくさんあります。体育館下の食堂で集団給食実習をした事、中学校で教育実習をした事、専門教科で厳しく鍛えられ涙した事もありましたが充実

なく言えるのは、二十歳の時から私の傍には常に『保育士』がありました。まさか、こんなに長い付き合いになるとは、想像もしませんでした。五十歳で再度勉強した時の震えるほどの感涙はないけれど、若い頃の勉強がこんなにも人生に及ぼすものなのかと、痛感した次第です。私よりも若いみなさん、これから

からです。いろいろチャレンジしてみてください。これも本大学で学びました。私もほちほち進みます。本大学の先生の方々から人間として保育士としての理念を学び、諸先輩の方々からは、保育士の道に導いていただきました。私にとって、保育士は一生の仕事となりました。ほんとに感謝の気持ちでいっぱいです。

した楽しい学生生活でした。又、東京オリンピックの年で附属高校の広渡さんが聖火リレーで聖火を持つて走りました。学園総出で応援に行った記憶も残っています。卒業した年、在学中、親友であった友と文化祭に出かけ恩師である納身節子先生から助手にとのお声をかけていただきました。就職と同時に日本女子大学の通信教育部に入学、毎年夏休みは四十日間、東京でのスクーリングに出席しました。この間、助手としての業務を放棄して下さり「勉強が出来る時はしっかり学びなさい」と応援して下さいました。三年間、無事に助手を勤めた後、附属高校食物科に転勤し教

社会人になって

食物栄養学科 第60期生 川内 渚



平成三十一年四月新人職員

オリエンテーションを終えた私は配属の部署につきました。

在学中に学んだ教科が実践出来ることととききました。私の業務が御利用者様の健康管理の一端を担えるかと思うと心の底からエネルギーが湧き出て来ました。

令和三年の新春は一面の銀世界でした。早朝の白い道を清々

しい気持ちで車のハンドルをにぎり、私を待っている住宅型有料老人ホームニューハートピアに向かいました。

御利用者様が「美味しかった」と言ってくれた言葉が励みになります。

先輩に指導していただき、自分の知識になっていくことがうれしく専門書を読み、自らのノートに記し、日々の綴りが少しずつ増えていくことが何よりの私の存在を意識づけております。

いろいろな職種の先輩方の御利用者様への声かけや対応の様子など、社会人として学ぶべきことを日毎に体験させていた



き、少しずつ成長しているように思います。私はお食事時や施設内ですれ違う時には笑顔で話しかけをいたしております。

四季折々の行事を大切に、ハレの日の食事は、季節のしつらえと共に皆様に楽しんで召し上がっていただいております。私

つながりを断たないこと

専攻科(介護福祉専攻) 第9期生 楯 隼太郎



つくし通信第五十号の発行おめでとうございます。記念すべき年に寄稿のご指名を頂き、身に余る思いでございます。

私は卒業後、特別養護老人ホーム、グループホームで勤務し、介護支援専門員の資格を取得しました。現在はその経験を以て、通所リハビリテーション施設で介護主任として後輩の育成にあたっています。そして自らも、様々な疾患を抱えながらそれぞれの環境で在宅生活を送る利用者の方々から、日々学び

共も料理作りだけでなくイベントにも参加して、よろこびを共に致しカメラのなかに写していただいております。

今春入職三年になります。社会人として多くを学び東筑紫短期大学食物栄養学科第60期卒業生として職務を全うして参り

の機会を頂いている此頃です。

さて、2月2日現在、福岡県でも新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の期間が延長され、未だ気の抜くことのできない状況が続いています。そのような中、医療や介護現場のひっ迫による在宅での介護負担の増大、経済的問題、外出機会の減少によるストレスの蓄積が要因となり、高齢者虐待を含む家庭内暴力の増加が危惧されています。この度の寄稿では、重度の身体介護や認知症介護に従事し、苦悩する利用者家族、そして今も祖母の介護を続けている両親の姿を目にしてきた経験から、虐待について個人の考えを述べたいと思います。

福祉や医療の仕事に携わる上

たいと思います。

コロナウイルス感染予防で気持ちが悪くなることもあり、御利用者様共々、手洗い、マスク、会話などに気をつけ笑顔で接することが出来る日を一日も早く来るように願っております。

で、虐待とはとても身近なものです。介護従業者による虐待事件の報道によって「虐待をするような人は、はじめから介護なんてやらなければいいのに」といった声が上がることがあります。そうした時、同志として虐待をしてみよう人の心理について思いを巡らせます。偉人マザー・テレサは「思考に気をつけなさい」と説きました。思考はやがて言葉となり、行動となり、習慣となり、性格となり、いつか運命となるのだといえます。虐待に至る思考とは何なのでしょう。

考えるに、ひとつは知識・経験の不足から、目の前のインシデントに対する安易な解決策として暴力を選ぶこと。そしてひとつは、世話をする側・される側という図式が、いつしか支配する側・される側という力関係に変質することで生まれる

行為過程へのアディクション(嗜癖)です。後者は意志や精神の力ではコントロールできない脳の病であり、そのことを念頭に考える必要があります。暴力による支配などの行為には、ストレス解消や目の前の嫌なことから一時的に解放されるといった快感が伴います。快感を伴う行為は、脳内報酬系という神経回路を活性化させます。この状態が恒常化すると、以前は我慢することができていたようなちよつとしたストレスに対しても、その行為をまたやりたい(快感物質を得たい)という欲動が起ころうようになるのだといえます。閉鎖的で死角の多い環境では依存行動を繰り返すことが容易であり、こうして虐待が常態化されていくのです。

つまり虐待の芽を摘むには、整備された教育課程・啓発運動が肝要であることは言わずもがなですが、依存症に対するアプローチも必要になってきます。依存症の脳に対しては、まず「脳内報酬スイッチを入れられないようにすること」(即ち、脳神経に過剰な刺激が加わらないよう過度の労働を避け、余裕のある生活を維持することが重要だといえます。多くの人にとって、とて

も難しいことではないでしょうか。そして虐待の加害者に共通する要素として、自己評価が低いことが挙げられるといえます。虐待はもちろん罪ですが「虐待をするような人は自分たちとは違う人、恐ろしい人」といった論調は、依存に陥っている人の内向性を更に強めてしまうリスクをはらんでいます。

ストレス社会と呼ばれる今を生きる我々現代人。長い人生のなかでは、時に追いつめられ、自分や他人を大切にできなくなることもあり、誰もが虐待の当事者になる可能性をもっています。虐待をしてしまう人は、特別な人でも、劣った人でもなく、境界線は容易に踏み越えられるものとして目の前に存在している。一人ひとりがこの認識を持ち、特別視しないこと。つながりを断たないこと。それが虐待を未然に防ぐことに繋がるのではないのでしょうか。



幹事長挨拶

人と人を繋ぐ「折り鶴」

保育学科 第26期生 中村 徳子



二〇二〇年から全世界を覆いつくしている新型コロナウイルス。昨年四月には最初の緊急事態宣言も出され、外出の自粛、在宅テレワークへと変わっていききました。この状況下において令和二年度筑紫会総会・懇親会も中止を余儀なくされ、当番幹事一同、残念な思いでいっぱいでした。

しかし、そんな中、コロナが少し収まりかけた頃に、永濱会長をはじめ関係者の方々が、昨年七月の九州豪雨災害により被災された卒業生の皆様に「マスクを送る」という取り組みをされたのです。有難いことに当番幹事の私共も微力ではございますでしたが、その取り組みに関わらせて頂きました。コロナウイル

スのために何もできないと決めず、出来る事が多い中、通常ではない『今』自分達に何が出来るかを模索し、実行することの重要性をこの取り組みを通して学ぶことができたのです。また、その際に会長の提案でマスクに『折り鶴』を添えたことにより、卒業生の皆様から「心が癒されました」という温かい言葉が返ってきたそうです。そんな優しいやり取りにも触れることができ、人と人との繋がりの大切さを感じさせられました。

当番幹事を、お引き受けした事で、多くを学び、短大での二年間、諸先生方から厳しくも愛あるご教示いただいたことを懐かしく思い出しました。

永濱先生の授業では、「絵本」や「折り紙製作集」を手作りしたり、脚本、構成、演出の全てを考え行う「演劇」を学友と共に協力し合い何度もやり直したり、心身共に鍛えて頂いた

ことを覚えておりますが、その大変な経験こそ、現場において一番生かされ、大切なものであるという事を今も実感しています。

また、理論や技術的なことをご指導いただいただけではなく、「人間力」「豊かな心・感性」をも、育てていただいたのではないかと思います。還暦を迎えた私が現在も幼稚園に勤務できているのも「筑紫の心」を理念とした数々の学びがあったからだ、あらためて感謝致しました。

そして今回、同窓会通信「つくし」の記念すべき50号の編集にも携わることができ、恩師の皆様や先輩方、同期、後輩の皆さんの誌上交流ができればと心より願っております。

今や予想しなかったことが起きる時代。しかしながら一方では、だからこそ『今』を見つめ直し考えらるという大事な機会を与えられたようにも思います。

最後に『折り鶴』の意味のひとつに「希望」とあります。東筑紫短期大学筑紫会会員の皆様、そして世界中の人々の未来が希望に満ちた日々でありますようにと切に祈っております。

新会員入会挨拶

食物栄養学科 第61期生 古門 茉那美



新会員を代表いたしました。ご挨拶のことは述べさせていただきます。

はじめに、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、入会式が中止となりましたことは残念でした。

筑紫会は、多くの先輩方に支えられ築かれた伝統ある会です。その一員となれることを光

栄に思います。いまだコロナ禍で大変な状況となっておりますが、在学中に学んだ「筑紫の心」の勇氣、親和、愛を特に大切に、知恵をもって乗り越えていきたいと思っております。

今後は筑紫会の一員として、母校と筑紫会の更なる発展のため、誇りと自覚を持ち社会に貢献できるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

簡単ではありますが、入会のご挨拶とさせていただきます。



令和2年3月27日
〜令和3年2月末まで

賛助会員

洋裁研究科・被服科・
生活文化学科・
美容ファッションビジネス学科

- 4期 下川 トモ子 [5口]
- 6期 重富 佐代子 [5口]
- 10期 空閑 千恵美 [5口]
- 10期 村岡 宮子 [3口]
- 13期 光永 文子 [1口]
- 15期 植前 廣子 [3口]
- 18期 木下 英子 [5口]

保育科・保育学科

- 2期 永濱 初子 [5口]
- 4期 吉田 元江 [3口]
- 7期 阿部 東子 [3口]
- 11期 山本 鈴子 [1口]
- 13期 松本 洋子 [2口]
- 13期 山本 幾子 [2口]
- 15期 大久保 雅子 [3口]
- 19期 福永 愉明子 [2口]

- 20期 川口 ひとみ [2口]
- 21期 日野 良子 [10口]
- 22期 堤 わか子 [1口]
- 25期 小川 英子 [1口]
- 26期 林田 裕子 [3口]
- 26期 白石 弘子 [3口]
- 26期 久保 珠貴 [3口]
- 26期 奥村 雅美 [3口]
- 26期 中村 徳子 [3口]
- 29期 西田 しのぶ [1口]
- 29期 石出 真湖 [2口]
- 32期 岩本 優佳 [1口]
- 33期 河村 香織 [1口]
- 37期 岩本 ひさみ [1口]
- 38期 今丸 環 [1口]

食物栄養科・食物栄養学科

- 5期 丹下 貞代 [5口]
- 9期 大場 穂澄 [3口]
- 9期 芹田 千鶴子 [1口]
- 10期 小川 洋子 [5口]
- 27期 大石 三揮 [1口]
- 33期 尾辻 裕子 [1口]

専攻科

- 4期 田口 郁美 [1口]

(保育科29期)



ご協力ありがとうございました。

新聞購読をご希望の方は、新聞「つくし」(平成十五年度三十三号より)賛助会員としてご協力していただくようになります。

・賛助金 一カ年分 一口千円(お一人様何口でも結構です)

学友会活動報告

学生部学生指導課

立春の候、筑紫会会員の皆様におかれましては、ますますご清福にお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、平素より本学学友会活動へのご支援、ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

これまで、本学学友会活動は大学祭、針供養や学内成人式等、特色ある様々な行事を行ってきました。これらは、今まで本学学生並びに教職員に対する建学の精神「勇氣・親和・愛・知性」の啓発に大きく寄与してきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止について思慮しながら、行事の運営に取り組んでまいりました。特に、秋イベント「Fall Fes 2020」では、このような社会状況の中、学生・教職員が協力し、「東筑紫学園を盛り上げよう、みんなで頑張ろう!」という気持ちの詰まった行事となりました。これもひとえに、保護者や筑紫会会員の皆様のご理解・ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。本年度も残すところあとわずかとなりましたが、最後まで気を引き締め、学生と共に日々を過ごしてまいりたいと思います。

何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますようお祈り申し上げます。



令和元年度 東筑紫短期大学同窓会筑紫会収支決算書

令和2年3月31日(単位 円)

項目	子算	実入の部	備考
入会金	1,100,000	1,110,000	令和元年度入会金 @5,000 × 222名
会費	440,000	444,000	令和元年度会費 @2,000 × 222名
賛助金	100,000	91,000	32名 10,000×1名 5,000×7名 4,000×2名 3,000×6名 2,000×4名 1,000×12名
基金積立金取崩額	1,000,000	0	
ハッピー花り上げ	0	72,680	
雑収入	0	0	
前年度繰越金	0	0	
活動費	2,271,051	2,271,051	
収入合計	4,911,051	3,988,731	

項目	子算	実出の部	備考
事務費	100,000	84,000	文書・事務処理 他
通信費	50,000	15,446	理事会・評議員会開催案内 他
消耗品費	80,000	33,761	封筒・用紙 他
会費	150,000	143,310	令和元年度新幹会・理事会・評議員会 24,760 理事会次運賃 他
交通費	50,000	244,050	「つくじ」号 11,500部印刷
新刊発行費	300,000	761,857	令和元年度総会に関する補助
研究会補助費	800,000	81,271	ハッピー作品作り委員会 他
総研修費	100,000	35,975	初盆お供え・香典代 他
雑費	241,051	500,000	令和元年度名簿積立金
名簿積立金	500,000	0	
計	3,371,051	1,924,430	
次年度繰越金	0	510,301	
活動費繰越金	1,540,000	1,554,000	
支出合計	4,911,051	3,988,731	

基金積立金	名簿積立金
前年度繰越金 1,451,372	前年度繰越金 1,268,246
当年度取崩金 0	令和元年度名簿積立 500,000
次年度繰越金 1,451,372	令和元年度名簿代 555,000
	次年度繰越金 1,513,246

以上の決算書は、監査の結果適正であることを報告いたします。

令和2年5月2日

会計監査

阿部 東子
福谷 多雅子

令和2年度 東筑紫短期大学同窓会筑紫会収支予算書

令和2年4月1日(単位 円)

項目	子算	実入の部	備考
入会金	1,125,000	令和2年度入会金 @5,000 × 225名	
会費	450,000	令和2年度会費 @2,000 × 225名	
賛助金	100,000		
基金積立金取崩額	1,000,000		
活動費	2,064,301		
収入合計	4,739,301		

項目	子算	実出の部	備考
事務費	100,000	文書・事務処理 他	
通信費	50,000	役員会・当番幹事会等案内	
消耗品費	80,000	ハッピー 事務用品 他	
会費	150,000	令和2年度新幹会・役員会等	
交通費	50,000	役員会等	
新刊発行費	300,000	「つくじ」50号印刷	
研究会補助費	300,000	令和2年度総会に関する補助	
総研修費	100,000	大学祭ハッピー作品作り	
雑費	534,301	慶弔・災害見舞金等	
名簿積立金	500,000	令和2年度積立金	
新築祝い金	1,000,000	体育館・講堂新築祝	
計	3,164,301		
次年度繰越金	0		
活動費繰越金	1,575,000		
支出合計	4,739,301		

基金積立金	名簿積立金
前年度繰越金 1,451,372	前年度繰越金 1,513,246
当年度取崩金 1,000,000	令和2年度名簿積立金 500,000
次年度繰越金 451,372	令和2年度名簿代(200×25) 562,500
	次年度繰越金 1,450,746

学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

◆ 保育学科

〔取得及び取得目標資格〕 幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、認定ベビーシッター、こども音楽療育士、レクリエーション・インストラクター資格

◆ 保育学科専攻科 介護福祉専攻

〔取得及び取得目標資格〕 介護福祉士資格、福祉住環境コーディネーター検定®(東京商工会議所の登録商標です)
※本学保育学科卒業生は入学金を免除します。

◆ 食物栄養学科

〔取得及び取得目標資格〕 栄養士免許栄養教諭二種免許状、医療秘書実務士、フードスペシャリスト資格、診療報酬請求事務実務能力認定試験、日商PC検定（文書作成）



九州栄養福祉大学

少子高齢化社会の到来、環境汚染と食の安全、生活習慣病の蔓延、予防リハビリテーションの重要性と概念そのものの大きな変容、医療費の増大等々のなかで、目指すは「食とリハビリ」をグローバルな視点で連動的に捉え、直面する課題に応える科学的思考と使命感を持った人材育成です。

◆ 大学院健康科学研究科 修士課程

◆ 食物栄養学部

食物栄養学科

〔取得及び取得目標資格〕 管理栄養士国家試験受験資格、
栄養士免許、栄養教諭一種免許状、
食品衛生管理者（任用資格）
食品衛生監視員（任用資格）

◆ リハビリテーション学部

理学療法学科

〔取得及び取得目標資格〕
理学療法士国家試験受験資格、園芸療法士、
障がい者スポーツ指導員（初級）

作業療法学科

〔取得及び取得目標資格〕
作業療法士国家試験受験資格、園芸療法士、
障がい者スポーツ指導員（初級）



大学・短大 小倉北区キャンパス



小倉南区キャンパス
(リハビリテーション学部)

令和2年度 大学入試合格実績 (中間報告)

照曜館

R3年3月10日 現在

【国公立大学】 (総合型選抜・学校推薦型選抜のみ)

大阪大学	2	関西学院大学	3
九州大学	2	関西学院大学	3
宮崎大学	1 (医1医)	産業医科大学	1
お茶の水女子大学	1	西南学院大学	8
神戸大学	1	福岡大学	23
千葉大学	1	立命館A P U	1
広島大学	1	その他多数	
熊本大学	2		
山口大学	1		
九州工業大学	2		
大分大学	1		
長崎大学	2		
鹿児島大学	1		
長岡造形大学	1		
北九州市立大学	7		

総合課程

R3年3月10日 現在

【国公立大学】 (前期のみ)

立命館大学	4	東筑紫短期大学 保育学科	27
西南学院大学	15	東筑紫短期大学 食物栄養学科	12
福岡大学	1		
近畿大学	4		
多摩大学	2		

【私立大学】

九州栄養福祉大学 食物栄養学部	8
九州栄養福祉大学	6
リハビリテーション学部	6
関東学院大学	1
福岡工業大学	10
東京国際大学	1
久留米大学	1
福岡女学院大学	1
流通経済大学	1
福岡女学院看護大学	1
純真学園大学	1
九州産業大学	24
九州女子大学	3
別府大学	3
山梨学院大学	1
西南女学院大学	2
桐蔭横浜大学	1
西日本工業大学	2
九州共立大学	7
九州国際大学	13
梅光学院大学	7
久留米工業大学	1
日本経済大学	2

【私立短大】

東筑紫短期大学 保育学科	27
東筑紫短期大学 食物栄養学科	12

【各種専門学校】

福岡医療短期大学	1	大原簿記公務員専門学校小倉校	1
福岡工業大学短期大学部	1	大村美容ファッション専門学校	2
福岡女学院短期大学部	1	北九州市立高等美容学校	1
西南女学院大学	2	北九州保育福祉専門学校	1
九州女子短期大学	1	専門学校ESPエンタテインメント福岡	2
甲子園短期大学	1	専門学校九州自動車大学校	1
折尾愛真短期大学	2	専門学校九州デザインナール学院	4
		専門学校九州ビジュアルアーツ	2
		専門学校	
		コンピュータ教育学院ビジネスカレッジ	1
		専門学校福岡ビジュアルナールアーツ	2
		東京映画・俳優&放送芸術専門学校	1
		東京服飾専門学校	1
		中日本航空専門学校	1
		中村調理製菓専門学校	1
		日本工学院専門学校	1
		福岡ECO動物海洋専門学校	5
		福岡キャリアナリ製菓カフェ&調理専門学校	2
		福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	1
		福岡デザイン&テクノロジー専門学校	1
		福岡ビューティーアート専門学校	1
		福岡美容専門学校北九州校	1
		福岡理美容専門学校	1
		専門学校九州ビジュアルアーツ	2
		スピリッツオブマイスター	1
		ビューマンアカデミー福岡校	1
		BESTAFF MAKE UP UNIVERSAL	2
		九州動物専門学校	1
		ブライダル&ビューティクリエイト学園	1

美容ファッションビジネス学科 最後の卒業制作 ～ファッションショー～



誇り高き学舎



旧校舎



学祖宇城信五郎先生・カ子先生



旧園舎



三越屋



宇城記念館と1号館



三越屋テーブカット



なつかしい先生・
講義室・実習室



なつかしい玉井先生



被服科授業風景



保育科卒業生



保育学科の授業



保育科の授業





食物科の授業



体育の授業

リズム研究部



学生食堂

話術部



寮生活

バレー部

筑紫会イベント



菅原洋一リサイタル



デュークエセスリサイタル



趙国良コンサート



菅原洋一さんを囲んで



宮本隆司さんと



宮本隆司講演会



熱唱する富永祐輔さん



富永祐輔コンサート

筑紫会総会のひとこま



筑紫会新幹事役員

美容ファッションビジネス学科

高野里奈
花田萌楓
三原茉莉
渡邊真衣

保育学科

園田彩乃
高橋愛音
比田勝いちご
松浦美優
高口亜加梨
杉山心春
小田葉月
森永るるな

食物栄養学科

中村涼華
中山梨瑚
中島葵
樋口実夏

専攻科

田中沙季
増田雄介

退職された教職員

(敬称略・順不同)

〓〓指導ありがとうございました〓〓
令和元年度

保育学科	講師	榊田郁子
	〓	木原寛子
	〓	尾崎菜穂子
非常勤助手		梶原康子
特任教授	小川洋子	
教授	洪山昌雄	
助教	門脇真利奈	
〓	遠藤景子	
〓	光本美子	
〓	奥川満子	

訃報

東筑紫短期大学同窓会筑紫会 元会長

海原早智子様

(溝口) (被服科 第5期生 昭和31年3月卒業)
令和2年11月7日(逝去)

下関市福江町 みそら保育園 園長

松野実応様

(保育科 第4期生 昭和34年3月卒業)
令和3年1月13日(逝去)

東筑紫短期大学 助教授

東筑紫短期大学同窓会筑紫会 元理事・会計監査

福谷多雅子様

(被服科 第8期生 昭和34年3月卒業)
令和3年1月15日(逝去)

ご逝去を悼み、ご生前のご功績を偲び
心から謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和3年度
筑紫会総会

令和3年度「筑紫会総会」及び「懇親会」につきまして、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、拡大防止、そして皆様のご健康と安全を第一に考慮しました結果、中止とさせていただきます。

尚、コロナ禍の中ではありますが、皆様方との交流の場をもちたく、研修会を考えております。後日、ご案内いたしますので、その際には、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

編集後記

コロナ禍のなか、人との関わり方・親しい人への心くばり・見知らぬ人への心と躰の距離をとることなど、今までに気づかなかったことも明らかになりました。

新しい出発を応援したい新会員の皆様！

いつも笑顔でポジティブに。そして、しなやかに生きる日々を…と願っています。

詩人・谷川俊太郎の名詩の一節を贈ります。

ひとは歩く
今日から明日へ
ひとは歩く
ひとは歩く
自分の足で
ひとには歩く自由がある

ぜひ読んでみてください。

(編集者)

